

会話が成り立たない…

⇒ゆっくり話を聞く姿勢を見せましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

認知症になると、ものの名前が出なくなったり、言葉と意味を結びつけることができず、言葉の単語だけを並べることがあります。また、自分から言葉を発したり、相手の言葉を理解して、コミュニケーションを取るのが不自由になってきます。しかし、**会話が不自由になっても、認知症の人は何もかも分からなくなっているわけではありません。**

【 対応方法 】

- ①余裕をもって、**ゆっくり話を聞く姿勢を見せることが大事です。**あせらなくても、大丈夫、ゆっくり聞いていますよ、というメッセージを表情や身体全体で伝えるようにしましょう。少しずつ、断片的な言葉が出るようになります。
- ②認知症の人の**思いをくみとって、ヒントになるような物**などを使いながら、言葉をかけてみましょう。返事がしやすくなります。
- ③言葉の機能は低下しても、笑ったり、体を動かすことはできます。微笑みかけながら手を握るなどして、言葉だけではなく**笑顔や身体を使ったコミュニケーション**を活用してみましょう。
- ④**愛情をもって、やさしい声**で語りかけてみましょう。ただし、小さな子に話しかけるような言葉遣いではなく、普通に話しかけましょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P60-61

2022.6作成

ケアのコツ…「間」がもたらす価値を知る

コミュニケーションにおける「間」には、次のような可能性があります

- ・ゆったりした会話のペースにできる
- ・考える時間ができる
- ・相手にどう返答するかを考えられる
- ・相手の意見を検討できる
- ・言われたことの意味を理解できる
- ・相手の気持ちを推測できる
- ・自分の気持ちや考えを整理できる
- ・提案された選択肢をじっくり検討できる など



「間」を大切にして、お互いに心通い合うコミュニケーションにつなげていきましょう